碧の風
千葉市立川戸中学校
校報　第６号
令和４年１０月１４日

後期スタート

校長　　板垣　章子

１０月１２日より令和４年度後期がスタートしました。生徒会本部役員も３年生から２年生、１年生へとバトンタッチし、各専門委員会も２年生の新リーダーたちが出そろいました。少々緊張気味ではありますが、３年生の活躍を目の当たりにしてきた２年生なので、これからの学校を支える屋台骨としてしっかり活動してくれることと期待しています。

先日、朝の登校中、中学校の正門から数十メートル離れた歩道で、川戸小の１年生が転んで歩けなくなり、泣いている場面に立ち会いました。一緒にいた周りの小学生も困り、途方に暮れている状況でした。大人は、私と赤ちゃんを抱きかかえた別の児童のお母さんしかいません。また、小学校の養護教諭は校外学習の引率で不在であることもわかっていました。とりあえず怪我の手当てのために中学校の保健室に連れて行こうと考えましたが、抱きかかえたところ、腰痛持ちの私には少々背負うことは無理であると気づきました。そのとき、たまたま通りかかった中学生がいとも簡単に背負ってくれて、すぐに保健室まで運んでくれました。また、他の中学生徒も荷物を持ったりしながら付き添ってくれました。転んだ児童は幸い擦り傷程度ですみ、中学校の養護教諭の手当てを受け、迎えに来た小学校の先生と元気に小学校に登校して行きました。

以前、セーフティーウォッチャーの方が「中学生が小学生の登下校に寄り添ってくれると助かる」というお話をされていましたが、それを実感したできごとでした。中学生は、大人以上に体力もあり、気が利き、頼りになります。特に本校は小規模校であるため、生徒一人一人の重みは、大規模校とは異なるものがあります。大きな式典や体育祭などの行事があると、すべての生徒が会場づくりや準備に当たらなければ仕上がりません。日々の清掃活動においても一人一人の持ち場はとても広いです。さらに作業的な面だけでなく、委員会活動や係活動など様々な教育活動における生徒一人一人の役割や責任は重くなりますが、その反面、自らを試したり鍛えたりするチャンスも多くあると言えます。今回のような緊急な場面でも、ためらうことなく俊敏に対応してくれる生徒たちの様子を見ながら、頼もしく成長している川戸中生に明るい未来を感じました。

後期は碧祭をはじめ、１年校外学習、Ｃ組げんきキャンプ、２年自然教室など、大きな行事も計画されています。さらに３年生には、進路選択および決定、という険しい山がそびえています。一つ一つの目標に向かって、生徒たちがひたむきに歩み続けられるよう、支えていきたいと思っています。後期も、前期同様、保護者や地域の皆様のご理解とご支援をよろしくお願いいたします。